

本質的な英語力を向上する 対策型から体験重視の授業へ

—— 福岡県 東福岡高等学校のグローバル教育

文武両道で知られる東福岡高等学校では、大学入試や検定試験の対策のためではない実用的な英語力を身につける指導で、海外を舞台に活躍できる人材の育成をめざしています。同校英語科の清水流太先生に、普段の英語の授業とオンライン英会話に期待することについてお話を聞きました。

4技能+実学的な 英語力を習得

前身を語学学校（福岡米語義塾）にもつ東福岡高等学校は、「多様性の受容」を教育目標の一つに掲げて、異文化理解教育に力を入れていきます。英語科・清水先生は、同校の海外交流について語ります。

「ラグビー部をきっかけに始まったニュージーランドの高校のほか、中国やタイ、オーストラリアの提携校と交流し短期留学を実施しています。校内での異文化交流では、各学年に配置されているALT（外国語指導助手）が授業をサポートする」とはもちろん、ランチタイムに生徒と一緒に食事をしながら英語で会話する機会を設けたりしています。また、博多にある日

本語学校に通う外国人学生と放課後に交流するなど、英語でコミュニケーションをとる機会を多く用意しています」

清水先生が担任を務める特進英数コースは、九州大学をはじめとした国公立大学への進学率が毎年8割以上を誇ります。大学進学を念頭におく英語指導をする一方で、清水先生には迷いもありました。

「入試対策やGTEC[®]、英検[®]対策など、各種試験の対策型の授業には限界を感じています。もともと私は、英語が通じた時や英文を読めた時、学んだことを使えて通じた時の喜びやうれしさ、感動という自分の体験を生徒に還元したいという気持ちから教員になりました。今は4技能をバランスよく身につけつつ、実学としての英語力を育成することをめざしています。それが進学に求められる力にもつながると思います」



東福岡高等学校
英語科主任
清水流太先生

実体験を重視し オンライン英会話を導入

同校の英語の授業は、チーム



ネイティブ教員と英会話を実践できるランチ会。

ティーチングの開始や課題発表など、生徒が英語を発する機会を増やす内容へと変わっていき、さらに2019年度より、オンライン英会話を導入しました。

「われわれ教員が生徒に、学校の英語が実用レベルで通じる」といくら言っても、実体験にはかないません。私が担任する特進英数コースは、ほかのコースより生徒数が少なく小回りが利くので、先頭を切ってオンライン英会話を導入しました。講師と生徒が一对一で会話をするため、全員に十分な発話時間を与えられます。生徒たちは物怖じ

▼日頃の学習成果を確認できるオンライン英会話。



【問い合わせ先】

(株)学研プラス 英語教育事業室 / 西日本文教室 03(6431)1573 global-english@gakken.co.jp

するどころか笑顔で取り組んでいて、とてもよい反応です」
 オンライン英会話の効果は普段の英語学習にも及んでいます。「会話は単語の羅列でも通じますが、それでは講師からの評価は上がらないので、生徒はこれまで以上に文法を意識するようになりまし。今までは文法問題を解くための文法学習でしたが、実際に使う英語でも文法の必要性を肌で感じ、受講後は各自が自主的に復習しています。また、『授業で覚えた表現を使ってみたら、相手に通じた』とい

う生徒の感想もあり、相手のリアルタイムの反応が、英語学習へのモチベーションアップにつながっています。普段の授業でも生徒たちが積極的に発言するようになり、チャレンジしようという姿勢への変化が感じられます」

2学期のオンライン英会話では、自分の意見や情報をロジカルに英語で相手に伝える力を養う「ロジカルスピーキングトレーニング」の講座を選んでいきます。

「自分の考えに説得力を持たせ、相手を引きつける表現力を磨いてほしい。また、相手の意見を聞いて、自分の考えとすり合わせていく交渉力など、ロジカルなものの考え方を身につけることを期待しています。さらに、講座のトピックを通じて、いろいろな分野に興味・関心をもってもらいたい。このコンテンツは英語力のほかに知識も求められるので、今後は講座の予習と振り返りの指導をする予定です。トピックはどれも興味深い内容なので、普段の授業やチーム

ティーチングでのディスカッションのテーマとしても扱うつもりです。生徒たちにはいろいろな可能性があります。授業で興味を持ったことがきっかけに、その分野への進路選択をする生徒も出てくるかもしれません」
 今後のオンライン英会話に期待することを清水先生に聞きました。

「二対一のスタイルが基本ですが、グループ単位というのもおもしろいですね。講座内容が高度になり、困った時に仲間がいるとお互いに助け合えるし、予習も一緒に取り組めます。教員が教材を与えるよりも、グループワークのほうが確実に学習成果が出ますから」

テクニクの土台となる本質的な力を育成

生徒の発話量を増やした授業の成果は、順調のようです。「ALTの英会話とオンライン英会話の授業のために、私たち教員が指導する英語の授業はひと月で実質6時間減りましたが、一方で模擬試験の成績は上がっ

ています。これは生徒のがんばりが大きいのですが、今の授業形態でも十分受験を突破できるという実証例の一つです。ある意味試験はテクニクで突破できますが、それを私たちは教えるつもりはありません。生徒には、オンライン英会話でやっていることを、試験に生かしながらと言っています。テクニクの土台となる本質的な力が身につくように導きたいですね」

▼ロジカルスピーキングトレーニング トピックラインナップ (同校が採用しているトピック)

テーマ	ジャンル
インターネットは子どもに良くないか	テクノロジー
ペットは飼うべきか	動物
都会は田舎より住みやすいか	社会
ある年齢を超えたら自動車の運転をすべきではないか	社会
生徒に制服が必要であるか	教育
人はロボット、AIにとってかわられるか	テクノロジー
大学の授業料は無料にすべきか	教育・社会
すべての自動車は自動運転化すべきか	テクノロジー